

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみどりの風
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県霧島市横川町中ノ5645-1
記入者名 (管理者)	竹下 智行
記入日	平成 21 年 4 月 25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設を理解して頂くために地域住民を対象に見学会を実施している。地域に積極的に出て行く取り組みを行っている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を意識しながら、実践に向けて日々、取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	日々の地域との活動を月に1回、便りを出して報告している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方から椎茸栽培の指導や材料等を提供して頂き、交流を持っている。地域の老人会長さんに気軽に遊びに来て頂くように声かけをしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会等の行事やランドゴルフの集まりに参加させてもらっている。・入居者の自宅を借りて、入居者の方々を連れて行き、日中、過ごす取り組みを行った。その際、地域の方が食事作りにボランティアに来て頂いた。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地区の老人会長に運営推進会議の委員になって頂いているので、地域の行事を教えて頂き、参加させて頂けようとしている。また、地域に住む職員を通じて、グランドゴルフ等の交流をさせて頂いている。	○	地域に貢献する活動を運営推進会議の委員の方や地域の老人会長さんと協議していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現状の取り組みでを第三者の視点で、不足している点、気づかない点を評価して頂くことは今後の、施設運営ではとても大切なことだと思っている。職員は昨年の外部評価の結果に眼を通し、自分達が改善すべき点を職員で一丸となって、取り組むようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族にも参加して頂き、運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、日々の活動や課題等を報告させて頂いている。委員の方々から、意見を頂き取り組みに生かすようしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の福祉課に出向き、施設の現状を報告させて頂き、助言を頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員会議等で地域権利擁護事業、成年後見制度の勉強会を実施した。小規模多機能ホームの利用者に制度を活用した方がよいような人にいたので、家族、関係機関に働きかけを行った。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については職員会議で勉強会を開き、職員と共通理解の元、虐待を防止するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金や重度化時の対応について、契約前に十分な説明を行うようにしている。ターミナル期に入られた利用者にはご家族と今後の方針について、主治医を含め、確認をするようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や利用者の声は運営推進会議の委員の方に会の中で報告させて頂き、改善につなげている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態、金銭管理については面会時に説明させてもらっている。金銭管理については不足してくる時に連絡をしている。職員の異動については入職の案内は毎月の機関紙で行なっているが、退職については全員の家族には説明をしていない。	○ 金銭出納帳の定期的に確認印を頂くようにしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は要望等をその都度、受けているが、外部の方が来られた時も、施設の感想を自然なかたちで引き出すようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の業務の中やミーティングを通じて職員の意見や提案を聞き、改善できるように努めている。施設での状況は運営者にも定期的に報告している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等で職員の人数が必要な時は配置するように調整している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は2年間の運営の中で、1人いたが、その後はない。利用者や馴染みの関係を崩さないように異動は最小限に抑えている。退職時は利用者へ退職理由を可能な限り説明し、入職時も職員の紹介を行い、早く慣れて頂くように配慮している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の研修会を通じて資質向上を図る機会を設けている。日々の業務の中で、助言、指導を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと交流をしている。グループホーム連絡協議会を通じてネットワークの構築、勉強会の機会を持っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会を開催したりして、職員の交流を持つようにしている。休憩室は特にないが、リビングでお茶飲みをしながら休憩がとれるようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員には3ヵ月毎に目標を設定してもらい、問題意識をもって、業務にあたるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	できる限り、利用者本人と話をし、相手の思いや不安を聞くようにスタッフ一同心がけている。おとなしい利用者の方に対しては居室で話を聞いたりしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にご家族から利用者の生活歴やご家族の要望を聞くようにしている。また、面会時にも相談を受けるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅サービスを受けながら、自宅で生活ができないか、まず検討し、在宅での生活が無理であれば施設入所になることを説明している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には見学をして頂き、部屋や浴室、トイレ等の説明をし、不安の軽減に努めている。また、入居希望者の方へは見学を進めている。馴染めるまでは全職員で声かけを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護者という立場ではなく、共に生活し、支えあう関係を大切にし、味噌作りや漬物、季節の料理等、利用者から教えて頂くという姿勢をもって、接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との関係を大切にし、家族と過ごせる時間を大切にしている。外泊はご家族が望むのであれば、日数の制限もしていない。誕生会や忘年会、新年会にも参加して頂けるように連絡している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の生活歴を家族にお聞きすることにより利用者が家族に対して果たしてきた役割等を理解し、家族との関係が継続するように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活してきた自宅を使用し、日中、過す試みを行った。その際に、近所の方にも足を運んで頂き、交流を図っている。また、地域のゲートボールや行事にも参加し、交流をもっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベルの高い方が、生活の中で孤立しないように、利用者は平等であることを説明したり、認知症の周辺症状に対して理解をもって頂くためにみんなで話し合いの機会をもったりしている。茶話会を設け利用の意見を聞いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>利用が終了した後も、入院先の病院にお見舞いに行ったり、ご家族から病状等について聞くようにしている。</p>	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の生活の中で出てくる何気ない言葉や表情を観察し、思いを汲み取った支援を大切にしている。言葉で表現されない利用者には職員の観察から思いを代弁できるようにしている。意思疎通は困難な方には、ご家族や関係者から情報を得られるようにしている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前の面談や入所後の面会時に把握するように努めている。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1日を通しての観察、職員間の引継ぎ、記録の活用等を通して、利用者の状態を把握するように努めている。利用者ができるところに目を向け、利用者が生きがいをもって生活ができるように支援している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画書作成は本人の状況を日頃、よく観察している職員から情報収集を行い、サービス担当者会議等を通して、家族との情報交換を行っている。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員の日々の観察を参考に計画の見直しを行っている。急な変化があった場合は関係者、家族等の意見を参考に見直しを行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は1日を午前、午後、夜間と分け、時間帯ごとに記録を記入している。日々の様子の記録は介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊について、特に制限は設けず、家族の都合に合わせて、日数等の制限はしていない。家族からの希望や要望に柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には全員、見学に来てもらい、施設の役割を理解して頂いている。消防は年に2回訓練を実施している。学校からのボランティアの受け入れも行っている。警察との交流はまだない。	○	警察署に出向き、利用者の無断退去時の協力体制を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	健康状態が悪い利用者への対応として、家族と一緒に病院受診を行い、入院先の検討を行ったり、状態が悪い時は往診に来て頂いたりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に定期的に参加して頂き、施設の現状を報告し、助言等も頂いている。また、成年後見制度等について助言も頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医との関係を大切にし、それぞれの医療機関の定期受診をしている。また、変化がある時はその都度、受診したり、往診に来て頂く等、連携をとっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>認知症状の進行等がある時は、かかりつけ医と相談し、専門医を受診している。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>健康状態等についての助言を看護師から受けている。隣接する特養等の看護師にも気軽に相談し、連携を持っている。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院してもすぐに退所としないようにしている。入院前に主治医や家族と退院の可能性を検討し、退院後の受け入れができるように調整している。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期ケアについては、かかりつけ医も交えて、家族と今後の方針について、話し合いをもち、取り組んでいる。しかし、医療的な関わりが多くなり、当施設で対応できない場合もあることも伝えている。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>施設ケアの現状を把握し、かかりつけ医や家族とどこレベルまで、施設対応が可能かを検討し、家族にも説明している。</p>		
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者の状況を職員と協議し、住み替えの可能性があることも協議し、情報を共有化するようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は個々の尊厳を大切に言葉かけや対応を行っている。馴れ合いの関係になりすぎて、言葉が崩れないように注意している。記録の取り扱いは十分配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の能力に合わせた対応を行っている。個別に面談して気持ちを汲み取るようにし、自分で気持ちを言葉で表現できない方にも日頃の生活の様子から思いを汲み取るように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースは大切にしている。遅く起床される方には食事の時間をずらしている。職員側の都合で入浴の時間を変えたりすることもある。外に出たい方にはなるべく思いに添えるようにしている。行事等の予定が入っている時は事前に説明し了解して頂く。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	散髪は行きつけの美容室や理容店がある方は連れていくようにしている。特に要望がない方は職員で対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえやお箸配り、配膳、下膳、お茶碗洗い等、利用者の力を活かしながら一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌をされる方には、焼酎を出している。嗜好調査を行い、食べられない物がある方は別料理を提供している。利用者が希望されるものを提供するようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを把握し、利用者に応じた声かけを行い誘導している。オムツを使用している方には尿量に応じたオムツを使用するようにし、排尿状態に応じて交換をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員の方が入浴を週3回以上できるようにチェック表につけながら実施している。入浴の希望時間はなるべく本人に合わせて実施するようにしているが、業務の都合でできない場合もある。業務の都合でできない時は事前に説明する。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝は自由にしてもらうようにしている。夜間の消灯時間は特に設けず、眠れない方についてはリビングで職員と会話しながら起きている方もおられる。不安のある方は畳を利用してもらっている。部屋で眠られる時は空調管理を行い、快適に眠れるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力や生活歴を活かした役割、楽しみができるように個々の状況に応じた支援を行っている。料理が得意な方には料理を作ってもらったり、裁縫が得意な方には裁縫を頑張ってもらったりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金は金庫で管理しているが、買物でお金が必要な方には本人に渡し職員の見守りの中で買物をしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	洗濯物を干したり、とりこんだり、散歩をしたい方には外での散歩の時間を作っている。また、ドライブも定期的実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠い所への外出を時々実施している。その際にはトイレや食事場所等を調べ、計画的に実施できるようにしている。遠出の外出時は家族にも声をかけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に沿って、家族への電話は職員が仲介に入り、自由にできるようにしている。手紙を出したい方には切手を購入し、自由に手紙のやり取りができるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や友人、知人の方々が来られた時は、お茶や椅子を準備しゆっくりとくつろげるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束の禁止となるような事例を学んでいる。現在、身体拘束をしている方はいないが、今後、あったときのことを想定し、身体拘束委員会の設置とマニュアル、記録用紙等を準備している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の施錠は基本的に行っていない。日中は自由に出入りができるようにしており、職員が見守りをしている。夜間については玄関の施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	施設での過ごし方は部屋やリビング等、人それぞれであるが、どこで過してもよい環境である。利用者がどこにいるかは、職員は問題意識を持ち、職員同士が声かけをし対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の能力に応じて、自分で管理できる方には必要な物品の管理を行ってもらっている。台所はオープンなため、包丁等の刃物の管理は職員がしっかり収納している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応の研修や勉強会を開催し、事故防止に努めている。誤薬があったが、主治医からの指導、対応策を検討し改善に向けて取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練は1年に2回、看護師や消防職員を講師にし、実施している。	○	途中から入職してきた職員に対しても随時、実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練は1年に2回実施し、職員は実施したが、地域の方は入っていない。	○	災害時の、避難体制を地域の方にも入って頂き、実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前に高齢者のリスクに関する説明を行う。日頃の状況については担当者会議時、面会時に利用者の状況に応じて説明するようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の日頃の様子を細かに観察し、異変に気付いたら看護師、又は主治医に連絡し指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に利用者の薬の把握を行っている。薬の仕分けは職員が交代で薬剤情報を基に行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維のある食事、おやつ提供に心がけ、水分もとって、頂くようにしている。また、リハビリ体操等も取り入れ、体を動かす機会も作っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔清拭を行っている。自力でできない方には職員が必要に応じて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態を観察しながら食事摂取量を記録に残し、食事が少ない時は栄養補助食品等を出している。水分は1日1500CCの摂取目標に食事やおやつ時にお茶や牛乳等を出している。隣接する特養の栄養士にも指導を受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアルを基に勉強会を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前は手洗いを徹底している。清潔を保つためにこまめに掃除をしている。食材は賞味期限を確認し、新鮮なものを提供するように努めている。調理用具や食器は天日干しをしたり、食器乾燥機を使用し、熱消毒も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は和やかな雰囲気になるように、藁葺き家の置物を置き、靴の履きかえをしやすいように畳の椅子を置いている。庭にはウッドデッキからスロープを設置し、安全に通れるように配慮している。建物周囲は花を植えたり、畑を作ったりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には季節を感じることができるように草花を飾るようにしている。居室やトイレのドアの開閉時には音がしていたが、スポンジのクッションをつける等して工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模多機能ホームと併設しているので、気分転換を図りたい時には小規模多機能ホームのリビングに移動し、マッサージ機やソファに座ることができようになっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの品物を持ち込んでもよいことを説明している。また、部屋は椅子やテレビを持ち込むなどしてよいことを説明している。	○	部屋への持込が少ない方には、再度、ご家族に声かけをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やリビングの換気を行っている。おむつ交換後に臭いが残るので換気や消臭スプレー等を活用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物になっており、浴室やトイレ、廊下、玄関等には手すりを設置し、安全に自立した生活が送れるように配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わからなかったり、失敗しても決して、非難せず、利用者の方が失敗したことを恥ずかしくならないようにフォローをしている。自信を失うようなことがないように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴できる場所には椅子を置いたり、外にも椅子を置いて自由に座れるようにしている。遊歩道もあるため車椅子や歩行器の方も移動がスムーズにできるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小規模多機能ホームと併設しているので、利用者間の交流を頻繁に行い、外出や日々の活動を合同で行うことも多い。季節を感じて頂く取り組みにも積極的に取り組んでおり、味噌作りや炊き出し、蕎麦うち、餅つき等を行っている。利用者の方が毎日、充実した日々を過ごすことができるように、月間予定表を作成し活動を工夫している。外出では利用者の自宅を利用して、日中、過す取り組みを行い、地域の方との交流を図っている。